

ウェルビーイングと総合計画

～指標を使って町の資源(可能性)を探る～

2024年8月29日
まちづくり政策課 企画調整係

「ウェルビーイング」に触れる

- ウェルビーイングとは？
- なぜ今、ウェルビーイングなのか？
- ウェルビーイング指標(地域幸福度指標)とはどんなもの？
- 総合計画にどう活用していくのか？

— ウェルビーイングとは？

ひとことと言うと、**幸せ実感**。

WHOでは健康を

「身体的・精神的・社会的にウェルビーイングな状態」と定義



ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良好な状態にある
実感する幸せ。継続的に。（cf:ハッピーはもっと短期的な感情）

ウェルビーイングの対極にある概念は？

望まない、孤独・孤立

— なぜ、いまウェルビーイングなのか？

世界的な流れとして

- ① 物質的な豊かさの飽和・成熟化
→ GDPに代わる新たな指標の必要性
- ② 地球環境問題への対応
→ 経済成長のみを目標に掲げる社会への疑問
(SDGsも次の段階へ)



← SDGsの真ん中には何がある？
(°o°)！

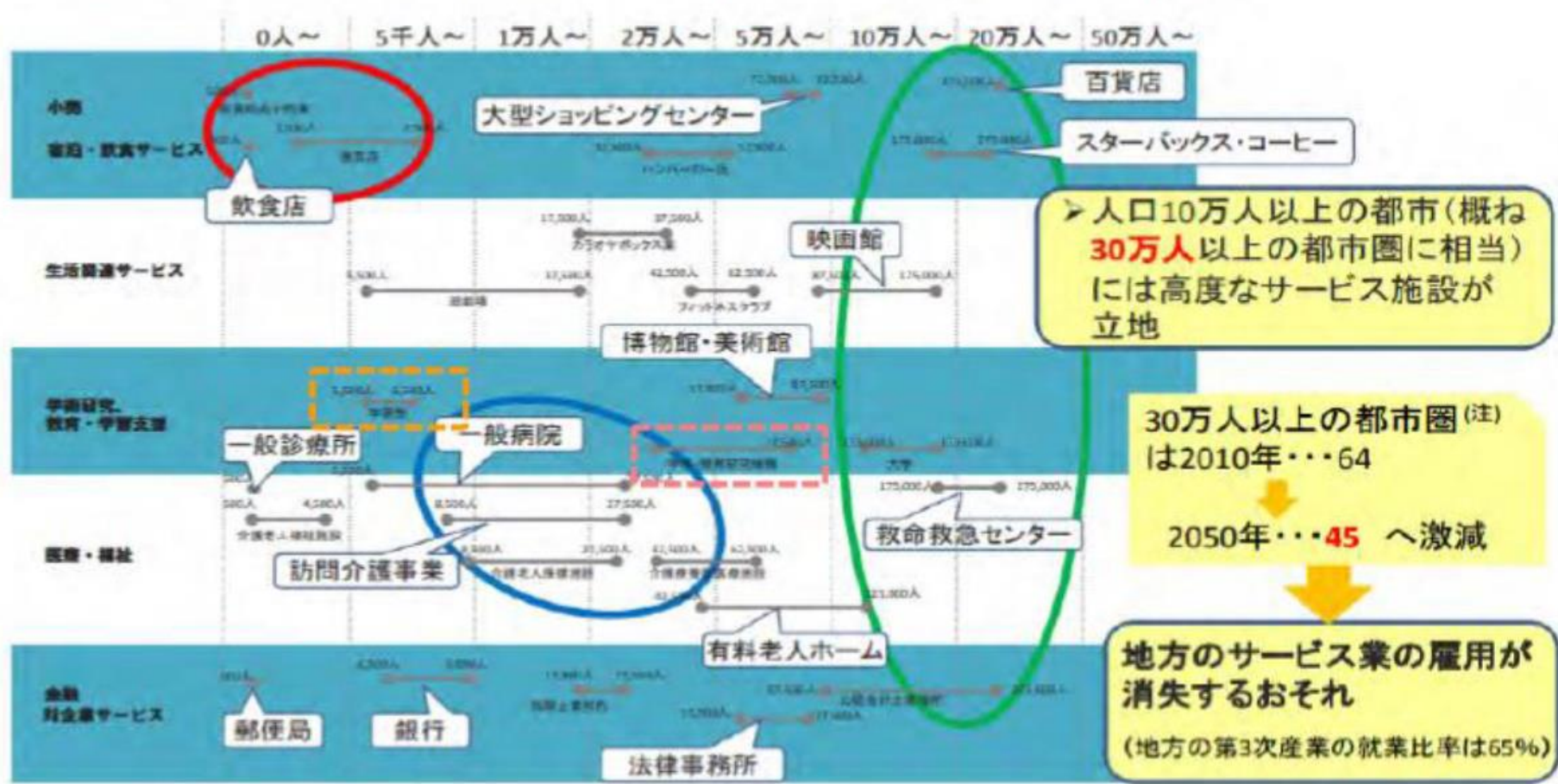
— なぜ、いまウェルビーイングなのか？

国内動向として

- ③ 人口減少社会への対応
 - 「持続可能な環境・社会・経済」、
「心ゆたかな暮らし」、
「地域発の産業革新」の3本柱を掲げる
デジタル田園都市国家構想

■ 人材の流出が続けば、地方から暮らしを支えるサービス業が消滅し、暮らせない地域が増えていく恐れ。

サービス施設の立地する確率が50%及び80%となる自治体の人口規模(三大都市圏を除く)



(出典)各種資料を基に国土交通省国土政策局作成 (注)三大都市圏を除く。

- 人口増加局面では。バス停に来るバスを待つなど、需要が供給に合わせる。しかし、人口減少局面では、バスが顧客の都合に合わせて動くなど、供給が需要に合わせることになる。
- その実現には、需給をリアルタイムで把握し、供給側の意思の確認を待たずに先にものやサービスを動かす、**デジタル基盤とデータの共有が必ず必要**となる。

人口増加局面

(国内消費拡大局面)

需要が供給に合わせる経済

交通	乗客がバス停で時刻表のバスを待つ
労働	雇用先の就業ルールに従業員が合わせる
買い物	消費者が売っている店まで買いに行く
教育	特定の学校・カリキュラムに生徒が集まる
医療	特定の医療機関とかかりつけ医に通う
物流	供給者側の指示で物流が動く
行政サービス	市役所に行って、手続きを申請する

- 人口も市場も増えるなら、供給からバリエーションを増やして、積極的に需給を調整できる。
(バスの本数が増える局面なら、調整のしようもある。)
→ 供給が需要に働きかけ、需要がそれに合わせる

人口減少局面

(国内消費縮小局面)

供給が需要に合わせる経済

迎えの車が乗客の都合に合わせる
従業員の暮らしに就業ルールが合わせる
商品が消費者の家に届けられる
生徒の側が学校・カリキュラムを選ぶ
患者が医療機関と医師を選ぶ
重要動向に合わせ自動的に物が動く
通知を受け取り、手続きが自動的に行われる

- 人口も市場も減る局面では、供給はバリエーションを削るしかなく、重要なバリエーションにあわせようがない。
(バスの本数が減る局面では、需要にあわせようがない。)
→ 需要が供給に働きかけ、供給がそれに合わせる 3

— なぜ、いまウェルビーイングなのか？

地方公共団体として

- ④ 社会科学的アプローチを得たうえで原点に立ち返る
→ 自治体の至上命題
「**住民の福祉の増進**を図ること(地方自治法第1条の2)」
でも、今まで出来そうが出来なかった**幸せの測定**

(人類は紀元前3世紀アリストテレスの時代から幸せを問うてきた。)

— ウェルビーイング指標とはどんなもの？ (地域幸福度指標)

ひとことで言うと、個人の幸せ実感を測定する指標。

◎ デジタル田園都市国家構想を展開する中でデジタル庁が開発

◎ 心ゆたかな暮らし × 持続可能な環境・社会・経済
(Well-being) (Sustainability)

◎ 地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問
生活環境・地域の人間関係・自分らしい生き方の3つの因子群
※ 3つの因子群は合計24のカテゴリーに細分して可視化

地域幸福度(Well-Being)指標

幸福感

主観

ウェルビーイングの因子

【アンケート調査】

生活環境

地域の人間関係

自分らしい生き方

医療・福祉 住宅環境 遊び・娯楽 初等・中等教育 デジタル生活 都市景観 自然の恵み 自然災害 地域とのつながり 自己効力感 文化・芸術 雇用・所得
買物・飲食 移動・交通 子育て 地域行政 公共空間 自然景観 環境共生 事故・犯罪 多様性と寛容性 健康状態 教育機会の豊かさ 事業創造



客観

暮らしやすさの因子

【オープンデータ】

生活環境

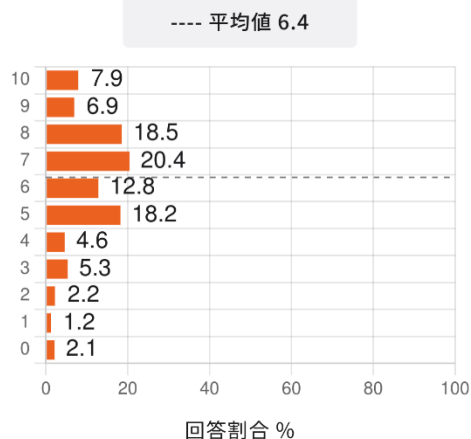
地域の人間関係

自分らしい生き方

医療・福祉 住宅環境 遊び・娯楽 初等・中等教育 デジタル生活 都市景観 自然の恵み 自然災害 地域とのつながり 自己効力感 文化・芸術 雇用・所得
買物・飲食 移動・交通 子育て 地域行政 公共空間 自然景観 環境共生 事故・犯罪 多様性と寛容性 健康状態 教育機会の豊かさ 事業創造

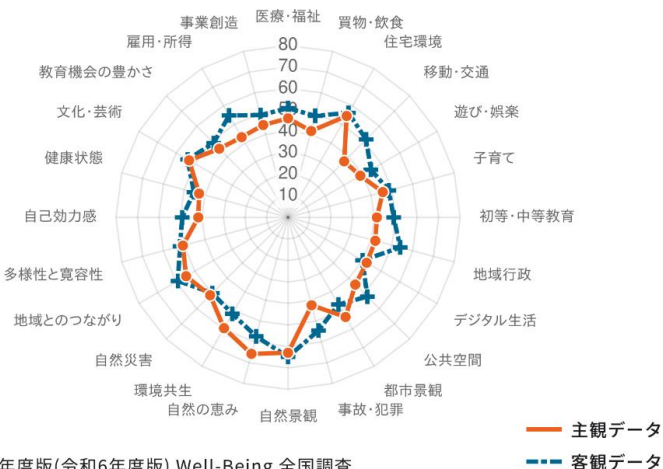
出典：一般社団法人スマートシティ・インスティテュートHP

幸福度



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

カテゴリー別



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

主観（ウェルビーイング）評価指標 ～ 全50問

地域における幸福度・生活満足度（4）

- 現在、あなたはどの程度幸せですか？
- 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？

- 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。
- 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う

生活環境（16）

医療・福祉（2）

- 医療機関が充実している（利便性）
- 介護・福祉施設のサービスが受けやすい

買物・飲食（2）

- 日常の買い物に全く不便がない（利便性）
- 飲食を楽しめる場所が充実している

住宅環境（3）

- 自宅には、心地よい居場所がある（居住空間）
- 【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている（秩序）
- 適度な費用で住居を確保できる

移動・交通（1）

- 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる

遊び・娯楽（1）

- 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある

子育て（2）

- 子育て支援・補助が手厚い
- 子どもたちがいきいきと暮らせる

初等・中等教育（2）

- 教育環境（小中高校）が整っている
- 通学しやすい場所に学校がある

地域行政（2）

- 地域の行政は、地域のことを真剣に考えている（地域行政）（社会関係資本）
- 公共施設は使い勝手良く便利である（利便性）

デジタル生活（2）

- 行政サービスのデジタル化が進んでいる
- 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい

公共空間（2）

- 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい（相性）
- まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある

都市景観（1）

- 自慢できる都市景観がある

自然景観（1）

- 自慢できる自然景観がある

自然の恵み（2）

- 身近に自然を感じることができる（自然）
- 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる（自然）

環境共生（1）

- リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである

自然災害（1）

- 暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている。

事故・犯罪（2）

- 防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい
- 歩道や信号が整備されていて安心である

地域の人間関係（2）

地域とのつながり（5）

- 私は同じ町内に住む人々を信頼している（社会関係資本）
- 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである（社会関係資本）
- 困ったときに相談できる人が身近にいる（つながり・感謝）（社会関係資本）
- 町内の人が困っていたら手助けする（向社会的行動）
- このまちに愛着を持っている（一体感）

多様性と寛容性（5）

- 町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある（異質性・多様性）
- 私は見知らぬ他者であっても信頼する（異質性・多様性）（過干渉・不寛容）
- 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる（一体感）（過干渉・不寛容）
- 女性が活躍しやすい
- 若者が活躍しやすい

自分らしい生き方（6）

自己効力感（1）

- 自分のことを好ましく感じる（一体感）

健康状態（2）

- 身体的に健康な状態である（健康）（地域の幸福）
- 精神的に健康な状態である（健康）（地域の幸福）

文化・芸術（2）

- 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい（ダイナミズム・誇り）
- 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（多世代共創）

教育機会の豊かさ（1）

- 学びたいことを学べる機会がある

雇用・所得（2）

- やりたい仕事を見つけやすい
- 適切な収入を得るための機会がある

事業創造（1）

- 新たなことに挑戦・成長するための機会がある（ダイナミズム・誇り）（モチベーション）

— ウェルビーイング指標とはどんなもの？

松川町として

- ◎ 総合計画の策定に際して、今後のまちづくりを議論する際の
共通言語（価値観や目的のすり合わせ）として活用したい。
しかも「幸福」という**ポジティブな価値に基づき議論**ができる。
- ◎ 課題発見～政策評価まで活用できる。



令和5年12月に**ウェルビーイング指標の測定**に対応した
町民意識調査を実施

— ウェルビーイング指標とはどんなもの？

松川町の調査状況

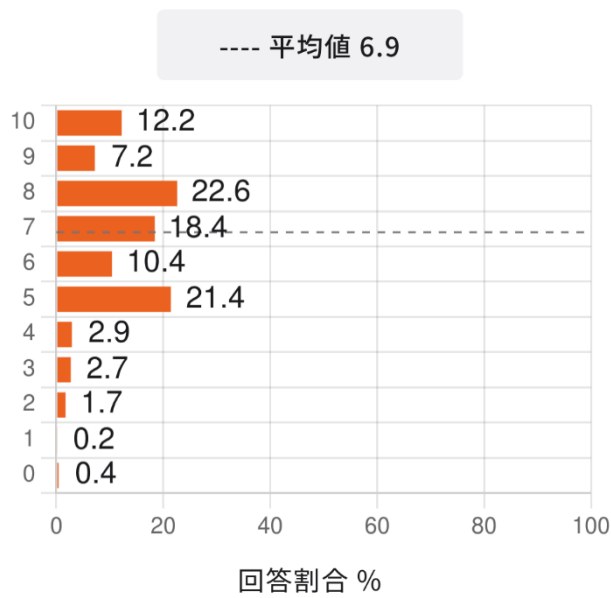
- ◎ 調査対象…満18～89歳の住民から2,500人を無作為抽出
- ◎ 回答者数…1,033人(回答率41.3%＝前回比＋9.8%)
→ 統計学的に必要とされる回答数(400人)を達成

※ 松川町は「全国的にも取り組みが早い団体」に含まれる。

76／1,724市町村 (令和6年3月時点)

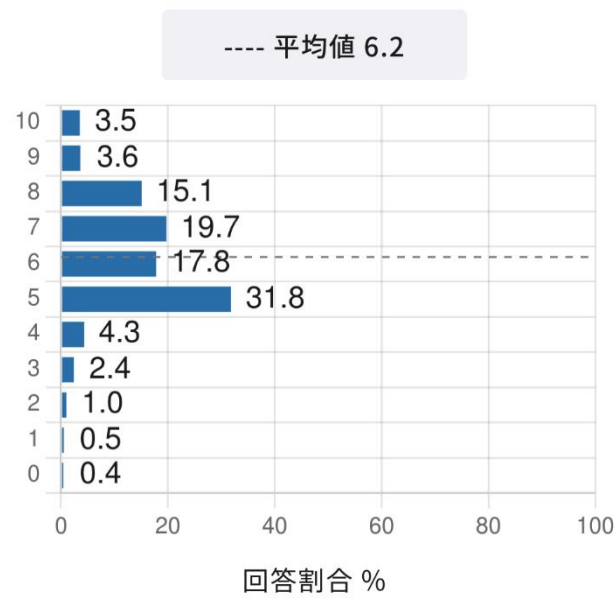
松川町の調査結果(幸福度全体)

幸福度



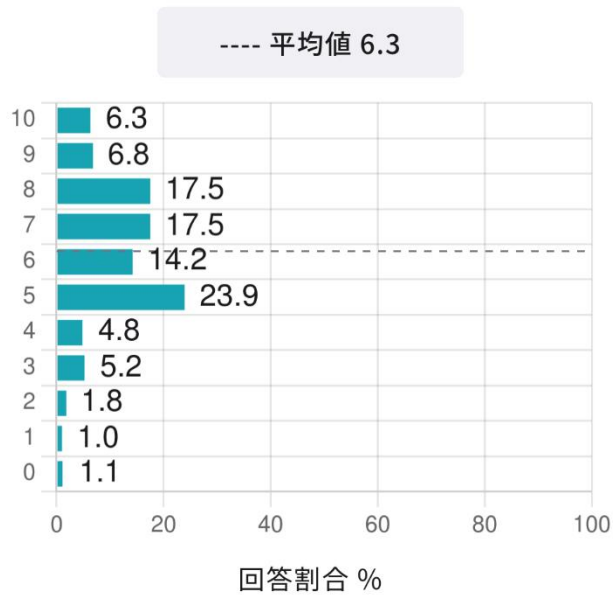
【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

生活満足度



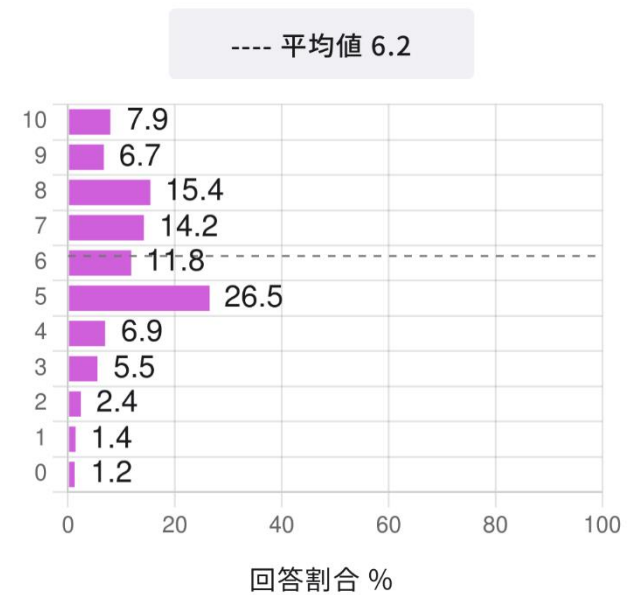
【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

5年後の幸福度



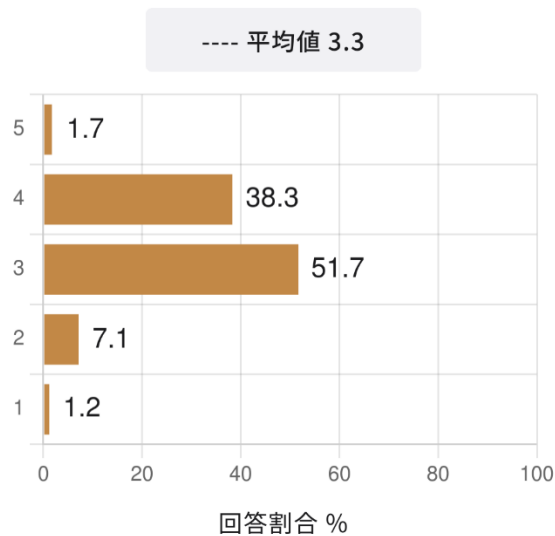
【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

町内の幸福度



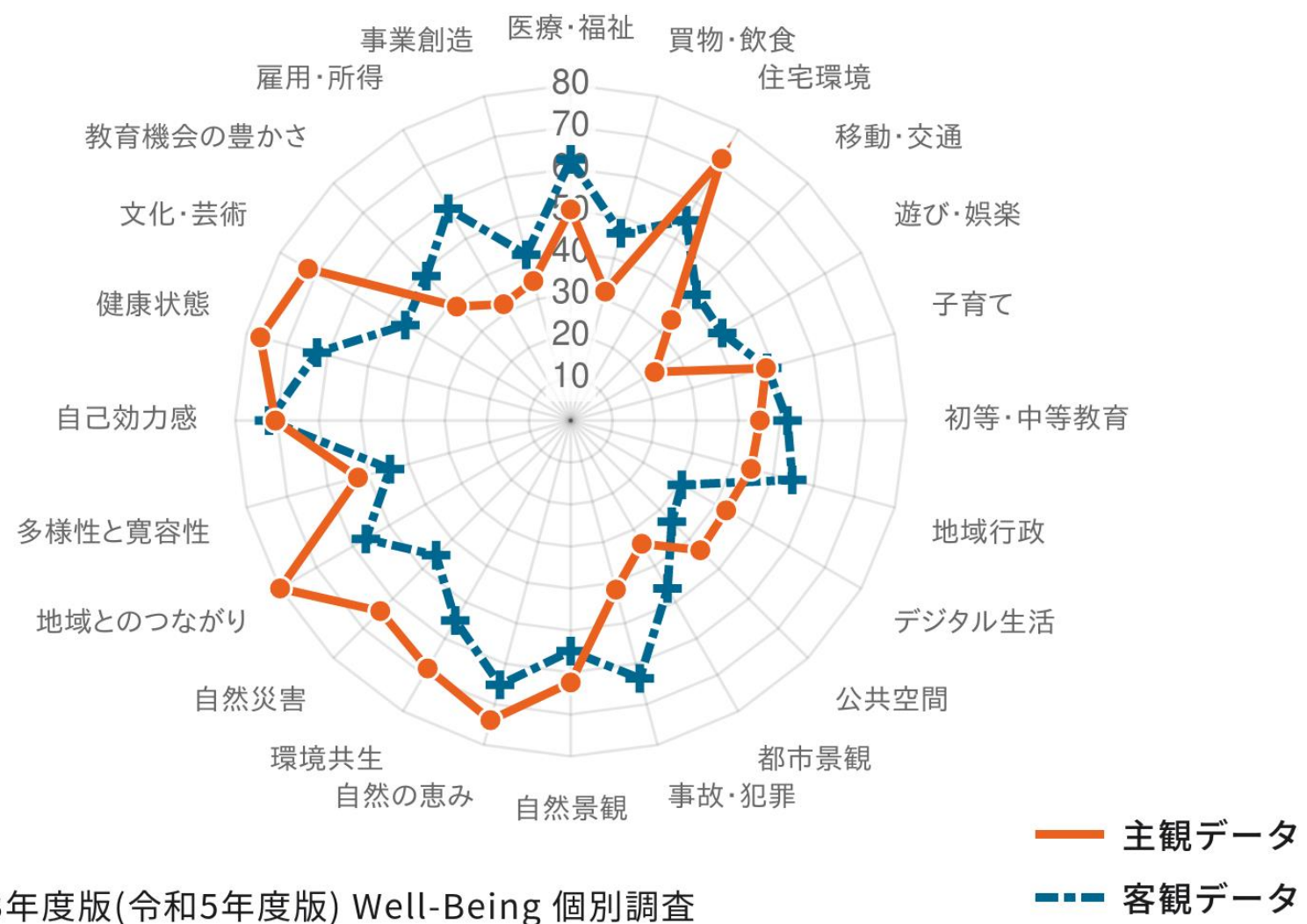
【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

周りも楽しい



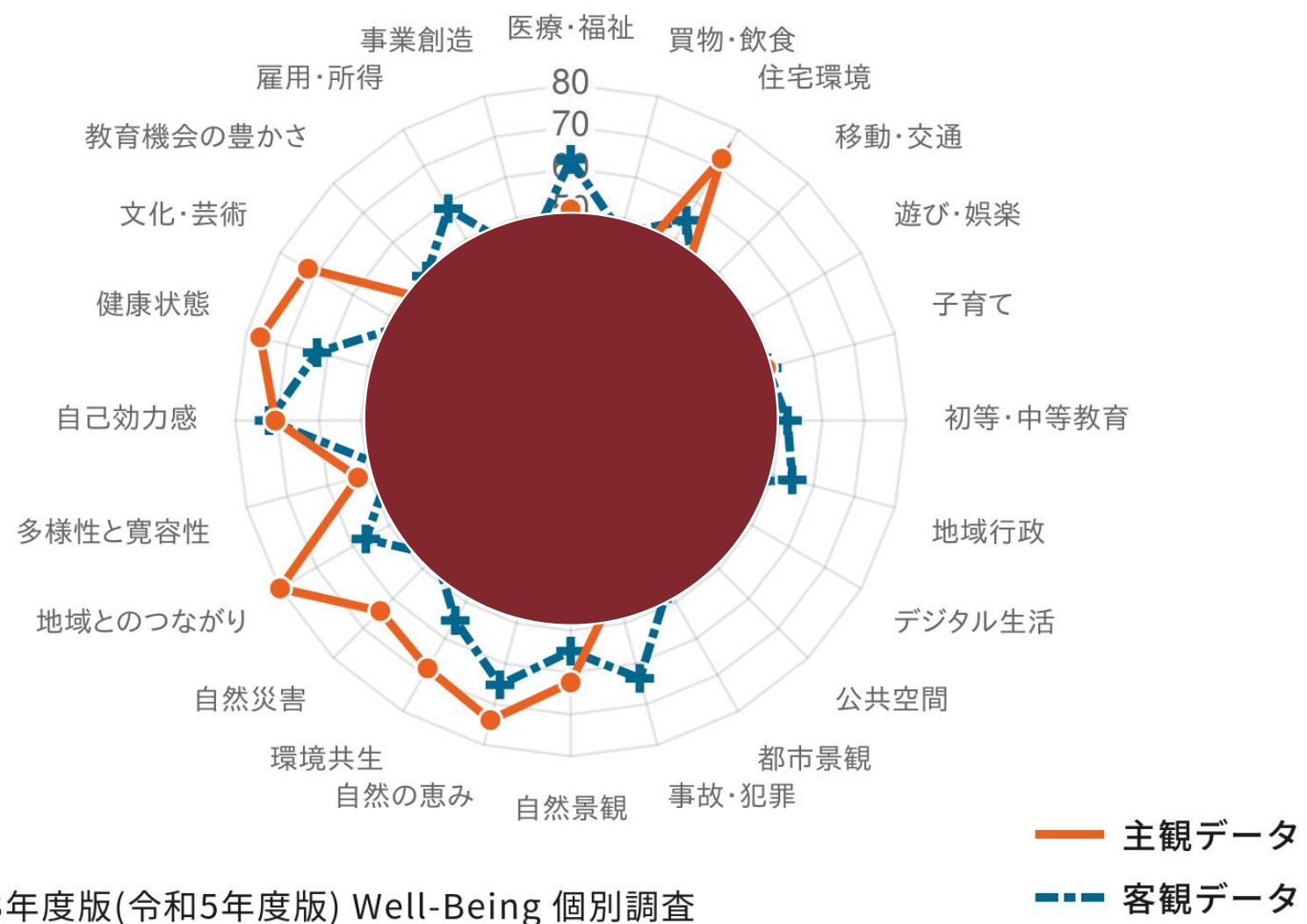
【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

松川町の調査結果(24因子)



【出典】 2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

主観・客観とも偏差値50超の因子＝松川町の強み



【出典】 2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

	脅威(T)	機会(O)
強み (S)	主観50以上・客観50未満の因子 文化・芸術 【主】72.3 【客】45.5 自然災害 【主】64.2 【客】45.4 多様性と寛容性 【主】52.5 【客】44.6	主観も客観も50以上の因子 地域とのつながり 【主】80.0 【客】56.4 健康状態 【主】76.6 【客】62.6 住宅環境 【主】72.0 【客】55.1 自然の恵み 【主】73.9 【客】65.2 環境共生 【主】68.2 【客】55.0 自然景観 【主】62.4 【客】54.9 自己効力感 【主】70.4 【客】71.9 医療・福祉 【主】50.3 【客】62.2
弱み (W)	主観も客観も50未満の因子 公共空間 【主】43.7 【客】34.1 子育て 【主】48.2 【客】48.5 デジタル生活 【主】42.8 【客】30.6 教育機会の豊かさ 【主】38.4 【客】48.7 事業創造 【主】34.4 【客】40.9 都市景観 【主】33.9 【客】46.2 移動・交通 【主】33.9 【客】42.4 買物・飲食 【主】31.8 【客】46.2 遊び・娯楽 【主】23.1 【客】41.7	主観50未満・客観50以上の因子 初等・中等教育 【主】45.1 【客】51.7 地域行政 【主】44.5 【客】54.7 事故・犯罪 【主】41.7 【客】63.6 雇用・所得 【主】32.0 【客】58.3

	脅威(T)	機会(O)
強み (S)	主観50以上・客観50未満の因子 <u>ブランドイメージ先行</u> → やがて劣化していく恐れ システミックチェンジが必要 (お金がかかる)	主観も客観も50以上の因子 <u>名実ともに強み</u> → 幸福度相関0.4以上は更に強い！
弱み (W)	主観も客観も50未満の因子 <u>名実ともに課題</u> → 2つの選択肢 ↓ 介入するか(お金がかかる) 撤退するか(自然体でよしとするか)	主観50未満・客観50以上の因子 <u>認知のバイアス</u> → ずっとそこにいる事の弊害 客観的に強いのに気づいていない 知らしめることで認識が変わる

松川町の調査結果詳細

(デジタル庁のホームページで公開中)

下記QRコード or

「 デジタル庁 ウェルビーイング指標 」 で検索



「1.ダッシュボードを見る」



「ダッシュボードを見る」



「個別調査」

「2023年度版」

「長野県」

「松川町」を選択

